

# 第21回新幹線運転交流会開催される



国労東日本運転協議会主催の第21回新幹線運転職場交流会が、6月15日大宮地区本部で開催されました。

当日は、東日本管内秋田・盛岡・長野・新潟四地本の新幹線運転職場7名と東日本運転協議会から長谷川議長・保科事務長・東京運車協安濃議長が参加し、新幹線職場における検修作業の問題点について意見を交わしました。

交流会の座長には、長野地本の佐藤さんをお願いしました。

はじめに長谷川議長から、「昨年10月東日本は検修の外

注化を一斉に強行してきました。以降の職場では私たち国労が指摘してきた問題点が浮上し、特に労働条件の部分では年間休日数の違い・人間ドックの個人負担問題・偽装請負問題等によって、職場ではモチベーションが下がり車両の安全確保が心配される」と、外注化の職場における問題点の実態について報告されました。

## 長野からの報告

- ・現在長野では2名居る限定運転士の1名について委託提案が準備されている
- ・今年2名の新規採用者が配属になった。
- ・北陸新幹線延伸についての長野の職場(運転士・検修)がどうなっていくのか不安である。
- ・北陸延伸に伴って、在来線が第3セクターになるという計画に地域もさることながら働くものの生活が壊されるという危機感を持たざるを得ない。

## 盛岡からの報告

- ・交番検査における要員確保については、休日出勤で確保している状態が多い。
- ・作業は分単位で行うため時間制限があり、ゆっくりと時間をかけて正確な作業が出来ない。
- ・車両車内圧・ドアの時差についての問題が解決されない。
- ・交番検査の統一した基準が求められている。

## 新潟からの報告

- ・E1廃車・200系も今年には廃車となる。
- ・P編成については部品取りとなっている。
- ・交番検査体制について、臨修からの応援で行っている状態。
- ・残業が続いている



## 秋田からの報告

- ・本年起きた脱線の事象については「低速走行による雪を巻き込んでの事象と言われている」
- ・同時にその事故の前4日間雪かきはされていなかった。
- ・乗客救出に6時間をかけている。
- ・軸保温の温度設定を上げた為に軸箱に水が入るようになった。
- ・要員関係では臨修からの応援をもらわないと交番検査が出来ない状態。
- ・冬場の交番検査では、車両が外に居る為下回りの各ボルトが凍って回せないの、そのボルト外しからの作業が大変である。
- ・台車の裏からの油漏れが多く、入区する度に油補給している状態。
- ・交番検査のマニュアルの本を持つての検査をしている。

一旦休憩を入れてから再開しましたが、話は職場での検査体制についての議論がされました。車軸探傷器・車内圧問題・ドア一時差・床下空調の為、フィルター交換が頻発になっている実態が議論されていました。

特に、要員問題については各現場共通して必死の課題として出されていました。

休日出勤をしなければ交番検査が出来ないというのは、根本的に会社の姿勢を変えていかなければならない緊急な課題であること、と同時に技術継承・向上問題についての会社の責任問題が議論されました。

同時に委託業務についての「チェックリスト」についての各現場での違いが話されました。

外注化での大きな問題点として、偽装請負を私達は求めてきたが、鉄道における業務は「混在作業」であり、外注化して本体と一体となった作業には無理がある事が指摘され、後検について本体が行っているところとそうでないところの温度差がある事も報告されていました。

安全安定輸送確保の為に、検査後の二重チェックである後検が求められていると思います。そう言った意味からもこの交流会を基軸にして、東日本における新幹線検修職場の統一要求を作成し会社に申し入れて改善を図っていかなければならないことをお互いに確認してきました。

最後に新潟から「委託会社が今年春に第二基本給の廃止を行い、忌引き休暇をJR本体に合わせた日数とし、ベースアップが行われた」という、嬉しい報告がされました。

## 最後に佐藤座長からのまとめとして

- ・軸探のさび止めについての調査
- ・パートナー会社における仕様書（契約書）の調査
- ・新型車両におけるドア一圧等の調査
- ・こうした調査を基にエリアの交流会で発展的な話が出来るようにしたい。



と、まとめられて交流会が閉会されました。

車両の安全安定輸送を確保する為に、職場の生の声を基に要求を作り会社に是正させる運動を作っていく事をお互いに確認し、閉会しました。

当日北は秋田～長野までの新幹線職場から集まって頂いた皆さんご苦労様でした。